

令和6年度 各係における教育活動重点目標

1. 教務係

《今年度の重点目標》

- ①新しい学力を踏まえ、生徒の学力向上を目指す。
- ②校務が円滑に行えるように計画・立案する。
- ③ICTを活用した生徒の出席状況の把握と先行指導
- ④生徒の豊かな人格形成を助ける。
- ⑤入試広報係協力しての生徒募集活動

※評価【〔達成度〕A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	教科シラバスによる計画的授業と定期考査の改善。新課程シラバスの作成と、観点別学習評価に合わせた定期考査の研究。	計画的な授業が展開でき、学習内容の定着が確認できたか。新課程に合わせた研究が進められたか。	B	新課程となり分割された科目については、抱き合わせる形の試験作成を認めることで対応している。今後も研究を進めていく。教科会でも話題に挙げ、継続して研究している。
①②	ICTの導入を踏まえた授業アンケートを実施し、その結果を利用した授業改善を促す。	授業評価を実施し、タブレットを活用した授業改善の促すことに努められたか。	B	前期授業アンケートを実施し、教科会で検討している。昨年度からはタブレット使用度も調査している。
①	実力テストの結果の有効利用と、効果的な学習活動につながるよう研究する。新課程については、小テストや振り返りシート等とともに評価に組み込めるよう研究する。	実力テストの活用について検討できたか。適切な準備・後処理が出来たか。新課程における評価の扱いについて研究を進められたか。	B	実力テストの準備、後処理は適切に行えている。実力テストの結果を観点別評価に組み込むことについては、今後、検証を進めていきたい。
①②	授業時数の確保	年間計画にのっとり授業時間が確保できたか。感染症の拡大等、不測の事態に対応できたか。	A	学年によりコロナウイルス蔓延による休校措置をとったが、オンライン授業を実施することで教育活動を滞りなく行うことができた。
①②	試験時間割・監督・事後指導の日程調整	計画的な試験対策勉強が出来る環境を作れたか。また、丁寧な事後指導を行えたか。	A	計画通りに実施できている。試験範囲を早く、統一して連絡することを、今後も継続していけるようにする。
①②③	適切な年間計画の作成	年間の様々な行事を適切に配置し、生徒の豊かな人格形成の手助けとなったか。	A	コロナウイルスの扱い、感染状況に落ち着きが見られたため、今年度は概ね計画に沿って進められている。

①②	学校自己評価	学校自己評価をとりまとめ、外部に公表できたか。		年度末に評価
②	校内・校外研修、相互授業見学等、新しい研修制度の実施	新たな研修制度を実施・運用し、タブレットを含む教員の知識・技術の向上、また生徒への反映に寄与できたか。	B	昨年度大きく変更した研修制度について検証を行う。また、タブレットを活用した授業改革につながる研修の実施と検討を行っている。昨年度末では校内教研で ICT や観点別評価について各教科で学びを深めた。
③④	生徒の出席状況の把握と先行指導	毎日の出席状況や、個人カルテを活用した 1/6、1/5 オーバーをした生徒の把握をし、適切な対応を行えたか。	A	紙による個人カルテから、データ入力の形に変更することで、教科担当と担任間の情報共有をより徹底することができた。成績会議等を通して全体でも情報を共有している。
②④	BLEND の有効活用	保護者との円滑な連絡や、生徒の活動計画、記録として活用、運用ができたか。	B	今年度より担任(顧問)と保護者間の連絡用に使用。他の連絡手段と棲み分けて活用されている。その他の機能の活用については検討が必要。
②	各種奨学金を生徒に紹介し、奨学金の受給を広げる	一覧表の配布や説明会を実施し、奨学金を生徒に紹介できたか。	A	学生支援機構の説明など円滑に遂行した。
②	働き方改革への取り組み	未来を展望し、新たに取り組むべきことを導入する余地を生み出すという前提に立って、業務の見直しを図れたか。		年度末に評価
⑤	入試広報係と協力して入試業務を行う。	入試説明会や学校見学会等を円滑に行えたか。	A	計画通りに実施している。

2. 進路指導係

重点目標	今年度の目標
①	講演会やキャリアガイダンス等を通して進路に対して目的意識を育むとともに、主体的な進路実現を支援する。
②	多岐にわたる進路における情報を適宜提供することにより、早い段階での進路意識の向上を図り、担任団の進路指導の援助を行うとともに、生徒の面接指導やプレゼンテーション指導等を支援する。
③	基礎学力の向上に意欲を持てるよう、各種補習や模擬試験への取り組みを充実させ、 進路実現に向けた学力の向上を図り、希望進路の実現を支援する。

※評価【〔達成度〕 A：十分 B：おおむねよい C：不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	三年間を見据えたキャリア教育を計画し、主体的な進路選択に向けた支援を行う。	各学年の段階に応じたガイダンスや講演会を、計画的に実施できたか。	A	ビックハットで行われた進路ガイダンスに2年生全員参加。大学出前授業・大学キャンパス見学の実施。校内でのガイダンスを予定している。
①	就職希望者を主とし職業体験の場を提供し、生徒の職業理解を深めさせる。	事業所見学の希望者に対し、事前に趣旨や意義を指導できたか。	A	ジュニアインターンシップや福祉・看護の職場体験を実施した。現3年生就職希望者3名
②	生徒の進路意識状況を定期的に把握し、適切な進路情報を提供しアドバイスする。	生徒の進路意識に見合った進路情報を提供し、進路相談を行なえたか。	A	進路探究ワークや進路探究ムックで進路情報を提供すると共に進路探究活動をサポートしている。 スタディーサポートを利用して進路意識状況を把握し、まとめている
③	生徒の学習の場を確保し、希望進路実現に向けた学力の向上を図る。	各種補習の実施、キャリアセンターやスタディーホールの有効活用ができたか。	A	夏期進学講習予定通り実施。土曜進学講習実施中。昨年度宿泊行事として実施した勉強合宿は、通い型に形を変えて特進学習会として実施。 スタディーホールの在席確認の仕方を今後研究していく。
② ③	生徒の成績の把握・分析を行い、状況に見合う進路指導を行う。	Highschool Onlineを活用し生徒の指導を行えたか。	A	模試ごとに進路検討会を行い、過去のデータや他校のデータと比較し把握分析に務めている。
③	研修会への参加及び校内での情報共有を行ない、職員間での共通理解を持つ。	教員の使用環境を整え、入試に問題なく活用する状況をつくることができたか。	B	新教育課程での入試初年度となる。入試の変更点などを収集し、必要に応じて共有している。

3. 生徒指導係

今年度の重点目標
① 制服を正しく美しく着させる
② SNS とのかかわり方についての指導を充実させる
③ 自転車の安全運転を徹底させる
④ 電車内のマナー向上と安全な登下校
⑤ いじめの予防、早期発見、早期対応

※評価〔達成度〕 A：十分 B：おおむね良い C：不十分

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	・シャツの第一ボタンまで締めさせる指導 ・女子生徒のスカート丈	・シャツの第一ボタンを締めさせる指導を徹底できたか ・正常なスカート丈で履けているか	B	学年問わず若干名の女子生徒のスカート丈違反があり、その都度指導しているが、大きく違反しているのではなく規定ギリギリを攻めている印象がある。注意しないとさらに短くして予めできるため細かな指導が必要と感じる。全体的には制服を正しく着用することが当たり前との風紀になってきており、落ち着いていると評価できる。
②	・校内スマートフォン使用ルールの徹底 ・生徒指導だよりや講話、校内電子掲示板を利用した啓蒙活動	・他係と連携。利用ルールが守られていたか ・SNS 関連の問題行動やトラブルが減ったか	B	校内スマートフォン使用ルールは定着している。1 学年で年度当初 SNS に関する講演会を実施。しかし SNS 絡みの問題行動が複数件発生し、多くは早期対処したため大事には至らず解決しが、被害生徒・保護者への対応が困難となる事例もあった。今後も生徒指導便りや、担任から SNS トラブル事例を紹介してもらうなど、さらに力を入れて啓蒙活動や指導に取り組んでいきたい。
③	・生徒指導だよりや講話を利用した啓蒙活動 ・通学路自転車指導 ・法改正に伴うヘルメット着用の奨励	・運転マナーが向上したか ・事故の件数 ・ヘルメット着用率は向上したか	B	例年通り、年度当初の立ち番により危険個所の指導を実施。生徒の登下校の様子や事故件数等を見ても、安全運転が出来ていると評価できる。ヘルメット着用については、生徒指導便りや集会の場面において、都度奨励に努めている。
④	・生徒指導だよりによる啓蒙活動 ・列車乗車指導・駅見回り ・通学路指導	・乗車マナーが向上したか ・登下校時の歩きスマホの状況	A	乗車に関するクレーム・トラブルはない。二学期に乗車指導を実施する予定。
⑤	・生徒指導だよりや講話による啓蒙活動 ・いじめアンケートの活用、他分掌との連携	・いじめを未然に防げたか ・適切な対応ができたか	A	クラス内での細かな人間関係のトラブルはあるが、小さなうちに担任・副任・学年主任や生徒指導が関わりながら解決に向けて指導が出来ている。第一回いじめアンケートも実施し、問題の早期発見早期対策につなげたい。

4. 生徒会係

今年度の重点目標	
①	生徒会総合本部役員のリーダーシップの下、伝統を大切にしながらも、社会に目を向けた活動を実践する中で、高校生として社会に対してどのような発信ができるかを考えながら活動を広げていくことを目指す。
②	役員会・クラブ・クラス・委員会など様々な生徒集団の中で、課題の発見から課題解決に至る道筋を見通し実行する力を育成することを通じて自立と自治の力をつけさせ、民主的な人格形成を目指す。
③	他校、地域、保護者などに対して開かれた活動を生み出し、社会性を身につけさせる。特に本年度は石川県能登半島地震の被災地の復興についてどのような活動ができるかを模索し取り組ませていくことで社会性を身につけさせていく。

※評価【〔達成度〕 A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	本部役員の企画力・行動力を育み、リーダー集団として成長させる。	予餞会・西高祭など各種行事を主催・運営することにより、自らの組織力や行動力を高められたか。	A	西高祭に関しては、テーマの実現をいかに図るかを大切にし、組織的な活動ができた。
①	太鼓の伝統を引き継ぐ。	太鼓の伝統的な指導を受け継ぎ、太鼓を通して団結力や精神面を鍛えられたか。	A	西高太鼓を継承し、発展につなげることができた。
②	上田西高校の学習文化の創設を図る。	第7回・8回の上田西高校学びプロジェクトを活用し、社会とのかかわる講座を提案することで生徒の社会性を養う。	A	第7回の上田西高校学びプロジェクトは12講座を設置し延べ111名の生徒が参加した。現在代替わりした新役員が第8回のプロジェクトを計画している。
②	話し合いを通して、協力体制をつくる力を身につけさせる。	各委員会の活動・生徒総会や各行事の企画・立案などを通して、課題解決のための討議・実践・総括のプロセスを身につけられたか。	B	委員会は役員や委員長からの依頼を実行する機関となっており課題解決のために総合的に動く組織になっていない現状がある。多くの生徒が民主的プロセスを経験するためにもその在り方を検討する必要がある。
①	西高文化の発展と広がりを探求する。	率先して社会とのかかわりを持つことで、西高文化を校内にとどめることなく、社会への広がりを模索することができたか。	B	上田西高校学びプロジェクトでは多くの講座が社会とのつながりを持っている。

②	集団指導体制を通して豊かな資質を育む。	各行事を通して、学年・クラスを越えた生徒・教員の交流を図り、豊かな人間性を身につけられたか。	B	リーダー研修会、クラスマッチで学年を超えたつながりを実践できる形は構築できている。あとは、そのつながりが日常的になるように工夫したい。
③	他校や地域との交流を深める。	他校との交流や地域的な活動を通して、他から学ぶ力や社会性を豊かにすることができたか。	A	文化学園長野とは文化祭において交流を深め、また定期的に意見交換会を実施している。また、石川県七尾市の鵬学園高校とも文化祭をお互いに訪れるなどの交流を始めた。 さらに、今年は震災復興支援をきっかけに上田市内高校との交流も拡大することができた。

5. 環境衛生係【環境分野】

〔1〕今年度の重点目標

【環境分野】

- ① 管理箇所の点検や防災の推進を図る。
- ② 年間を通して校舎内外の整美と美化に務める。
- ③ 全校生徒、職員による清掃活動を徹底する。
- ④ 学習環境や地球環境の保護意識を高める。

〔2〕評価表（A：十分 B：おおむねよい C：不十分）

【環境分野】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	分担力所の管理	・破損個所の発見および修繕 ・管理力所の安全確保	A	・学校見学会、部活動見学会前の点検 ・西高祭の後の点検
①	防災意識の啓発とそなえ	・生徒の防災に対する意識の啓発および防災訓練の実施	A	・9月5日防災訓練の実施 ・各教室へ年度初めに避難経路掲示
②③	校内清掃活動の推進	・日常の清掃活動の徹底 ・清掃用具の保守および点検 ・整美委員会からの呼びかけ	A	・5月、8月にモップ交換実施 ・使用限界清掃用具の交換（年度初め＋2回） ・7月清掃強化週間（委員会で推進）
③④	ゴミ分別の徹底	・環境負荷を念頭においた分別活動 ・職員の分別作業への参画（週番）	B	・西高祭での分別の徹底（委員会で担当） ・毎日のごみ回収とチェック（委員会、職員）